

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホーム ころこ
訪問調査日	平成20年9月12日
評価確定日	平成20年10月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホーム ころこ
所在地	始良郡加治木町西別府2820番地3 (電話) 0995-63-6300
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950円

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	7名	要介護2	2名		
要介護3	名		要介護4	名	
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84歳	最低	79歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大井病院 加治木温泉病院 桐原歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜の名所である公園に近いホームは、周囲を畑に囲まれて、ゆっくりと穏やかな時間が流れている。職員は家庭的な雰囲気の入居者と接しており、理念に掲げた「心からの笑顔」を感じさせる明るい笑い声が響いている。地域の方々には消防避難訓練に参加していただいたり、緊急時の連絡網を配布するなどして積極的に協力を呼びかけている。また地域のボランティア受け入れも積極的に行い、地域から孤立することなく安心して楽しみのある暮らしを継続できるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型としての理念については、これまでの基本はそのままにしてわかりやすい言葉で短くまとめ、周知しやすいように見直している。日常的な外出支援については、天候に応じて庭や地域のグランドゴルフの見学に出向き、時にはご家族の支援をもらいながら、なるべく多く外出機会を持つように努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価を参考にして、管理者が職員へ問いかけながら評価をまとめ、結果を報告している。外部評価で指摘のあった課題については、職員間での話し合いや運営推進会議を通して改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回のペースで開催し、ホームの近況報告や評価への取り組み等について報告している。町職員や地域住民の参加もあり、運営について協力を呼びかけるなど、有意義な機会となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関には意見箱を設置し、花見や味噌づくりといった行事に合わせて家族会を開き、ご家族から多くの意見や要望を聞く機会を設けている。運営推進会議への出席も呼びかけており、実際に参加していただいている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区自治会に加入しており、職員が地域の清掃活動や総会に参加している。子供たちが来訪して、伝統行事の雛踊りを披露したり、中学生の職場体験や小学生の訪問交流を受け入れている。近隣の方が畑に出て来られた際は、声をかけて一緒にお茶を飲むなど、地元の人々との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしい生活を継続できるように支援することを、わかりやすく理念に盛り込んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングやステーションに理念が掲げられており、毎日始業前に一読するとともに、処遇の中で問題が生じた場合は、その都度理念に基づいた対応方法について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入しており、職員が地域の清掃活動や総会に参加している。子供たちが来訪して、伝統行事の雛踊りを披露したり、中学生の職場体験や小学生の訪問交流を受け入れている。近隣の方が畑に出て来られた際は、声をかけて一緒にお茶を飲むなど、地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価を参考にして、管理者が職員へ問いかけながら評価をまとめ、結果を報告している。外部評価で指摘のあった課題については、職員間での話し合いや運営推進会議を通して改善に向けて取り組んでいる。		評価の意義とねらいについて全職員が理解するための機会を設け、全員で自己評価に取り組むことが期待される。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催し、ホームの近況報告や評価への取り組み等について報告している。町職員や地域住民の参加もあり、運営について協力を呼びかけるなど、有意義な機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催のケア会議に出席したり、日頃から町の担当者へ状況報告や相談を行っている。また、ホームにも立ち寄ってもらい、入居者の暮らしぶりを見てもらうなど、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3～4回発行する「グループホームだより ころこ」には、ホームでの暮らしぶりを写真を入れて紹介し、一人ひとりの身体状況についてのコメントを書き入れて郵送している。ご家族の面会時には、金銭出納帳を確認していただき確認印をもらっている。運営推進会議録や外部評価結果を玄関に掲示しており、訪問時には自由に見ていただけるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、花見や味噌づくりといった行事に合わせて家族会を開き、ご家族から多くの意見や要望を聞く機会を設けている。運営推進会議への出席も呼びかけており、実際に参加していただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、新しい職員が入居者と馴染むまではコミュニケーションを重視し、顔馴染みになってから常勤職員にするなど、入居者へのダメージを最小限に防ぐための配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や立場に応じて計画を立て、外部研修を受ける機会を設けており、スキルアップのための支援・協力を行っている。研修参加後は報告書の提出を義務付けており、他の職員は内容を確認することができるが、十分に周知するまでは至っていない。	○	計画的、段階的な研修体制は充実しているので、今後は外部研修を受講した職員による報告会を開くなどして、全体の質向上を図るとともに、研修内容に対する理解度や習熟度を把握することが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム職員が出席する交流会に参加し、意見交換や交流の機会を持っている。また、他のグループホームとの相互訪問を行い、サービスの質向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学に来ていただいてお茶を一緒に飲んだり、自宅や病院へ職員が訪問し、段階を経て馴染めるようにしている。入居後落ち着かれない場合は、ご家族の面会を促したり泊まらせていただくなどして、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や風習について尋ねたり、畑仕事や調理の方法を学ぶなど、アドバイスをもらう機会を多く設けており、その際には必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	着替えの服やおやつ、食事の量などを選択してもらう機会を多く設けている。また、毎月手づくりの絵手紙をご家族へ送るなどして、意向や思いを表出する機会づくりに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族、かかりつけ医等の意見をもとに計画作成担当者が仮の介護計画を作成後、職員と話し合い、意見を反映させた最終の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族に会議への出席を呼びかけたり、出席できない場合は電話で要望を聴取している。さらに、職員が日々の気づきを記載したケア日誌の申し送り事項の内容を取り入れながら、状態の変化時や定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の訪問看護ステーションから訪問看護を受けたり、ステーションを通してかかりつけ医と連絡を密に取るなどして支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、ご家族や職員のどちらかが同行し、かかりつけ医から申し送られた観察事項についての情報を提供したり、ご家族が同行できなかった場合の受診結果については、電話等で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者について、かかりつけ医から直接ご家族に状態を説明してもらい、ミーティングで職員にケアの方針を周知して十分な話し合いを行い、関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に個人情報の取り扱いについての指導が行われ、誓約書を交わしている。個人の記録等は適切に管理している。また、日常のケアの中では、言葉かけに留意して、誇りを損ねることがないように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間にとらわれずに、これまでの生活リズムを尊重して、一人ひとりの状態や希望に合わせて起床・就寝、食事ができるようにしている。また、庭先に自由に出て外を眺めるなど、入居者の意向に沿った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の中に管理栄養士がおり、入居者の嗜好調査やアレルギーの有無を確認しながら献立をつくり、畑で取れた野菜などの季節の食材を取り入れながら調理している。また、希望に応じて”おかわり”も可能である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は決まっているが、季節や入居者の状態や希望に応じて、いつでも入浴できるようになっている。拒否のある入居者に対しては、無理強いすることなく、着替えを理由に誘導するなど、声かけや対応の工夫をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵手紙や大正琴をボランティアで教えてもらえる機会があり、大きな楽しみとなっている。できた絵手紙は希望に応じてご家族や親戚に郵送しており、皆さんから喜ばれている。日常的には落とし紙や汚物入れを折ったり、洗濯物たたみやテーブル拭きなど、一人ひとりの力量に合わせて家事を手伝っていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向や身体状況に合わせて、買い物や散歩に職員と一緒に出かけたり、ドライブや畑の様子を見に行くなど、日常的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠されておらず、庭とホームの移動は自由にできる。入居者が単独で外出される場合を考慮して、近隣の方々に協力を呼びかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防災訓練として通報・避難(地震や夜間想定を含む)・消火の訓練を実施している。訓練の際は地域住民にも参加を呼びかけ、連絡網を配布して協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員である管理栄養士が、栄養バランスに配慮した献立を作成している。一日の水分量は目安を決めて摂取を促しており、食事量とともに、摂取不足の入居者に関してはケア日誌に記載し、観察や注意事項について申し送っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングの一角にソファの空間が設けてあり、窓から見える畑には季節の野菜や花々が植えられ、季節を感じながら居心地よく過ごせるように配慮している。また、玄関先には椅子が準備され、思い思いの空間で過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジカセやテレビ、植木鉢やご位牌など、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただき、好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間がつかれるように配慮している。		